

SNW 学生とシニアの対話イン九州大学 2017 事後アンケート結果 (平成 29 年 12 月 6 日開催)

纏め：梶村 順二

1. アンケート回答者 . . . 工学部エネルギー科学科、エネルギー量子工学専攻 14 名

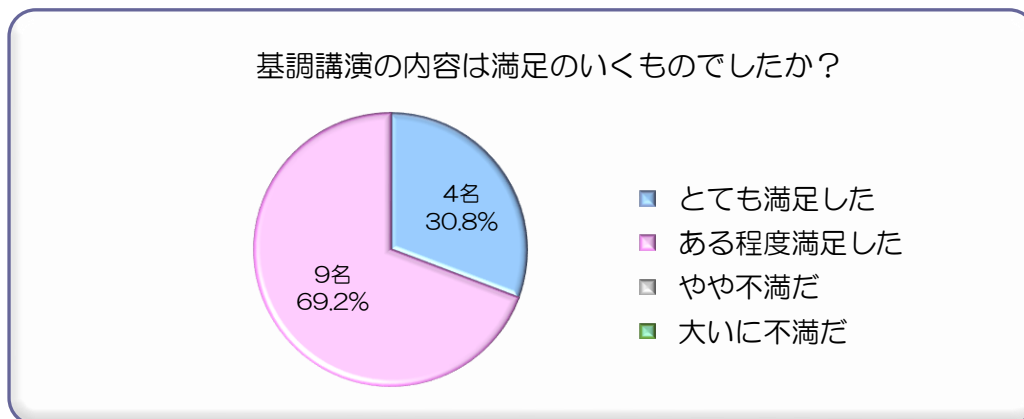
(内訳)・3年	2名
・4年	5名
・M1	4名
・M2	3名

2. 対話会について

(1) 基調講演の内容は満足のいくものでしたか？その理由は？

とても満足した	4名 (30.8%)
ある程度満足した	9名 (69.2%)
やや不満だ	0名 (0.0%)
大いに不満だ	0名 (0.0%)

出席者全員が「とても満足した」又は「ある程度満足した」と回答している。



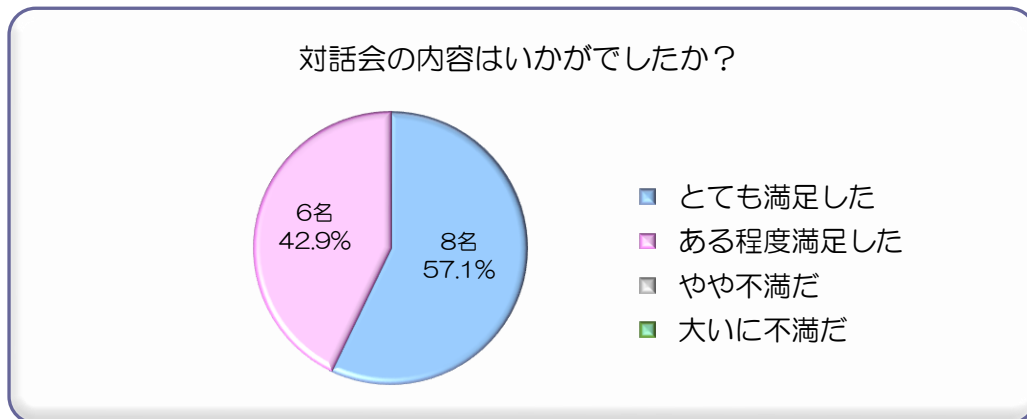
<理由>

- 忘れていた知識を再確認することができた。
 - ・ 日本と他の国の原子力の現状について分かるようになった。
 - ・ 普通のセミナー等では聞くことができないような内容だったため。
 - ・ 激しい表現も含め、本音で現状についての考えを聞くことができ、参考になったので。
 - ・ 今まで知らなかった新たな知識が得られた。
 - ・ 世界の動向と我が国の原子力の将来について理解、考えが深まった。
 - ・ 原子力の重要性を再認識。
 - ・ 第一線で活躍された方の、生の意見は非常にためになった。
 - ・ 原子力そのものよりも、社会問題に目を向けた講義は新鮮だったため。
 - ・ シニアの方からの意見は新鮮なものだった。
 - ・ 想像していた原発のイメージが明るくなった。

(2) 対話会の内容はいかがでしたか？その理由は？

とても満足した	8名 (57.1%)
ある程度満足した	6名 (42.9%)
やや不満だ	0名 (0.0%)
大いに不満だ	0名 (0.0%)

出席者全員が「とても満足した」又は「ある程度満足した」と回答している。



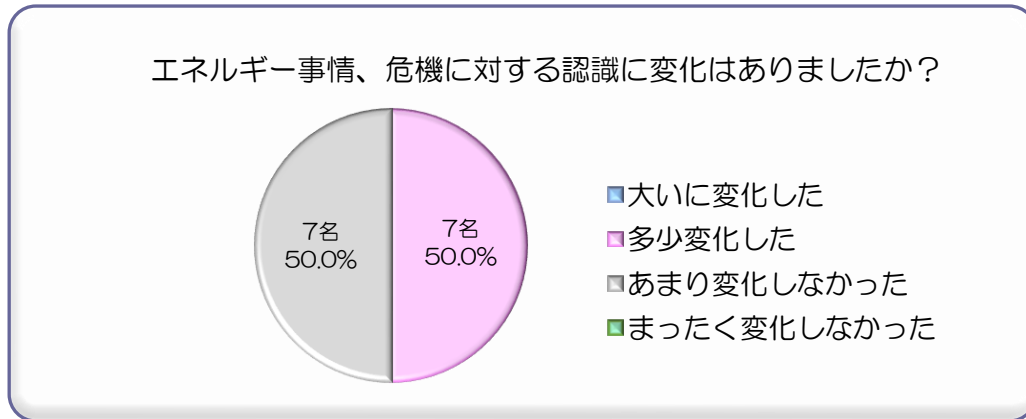
<理由>

- ・ 新しい情報・知識・知見を得ることができたから。
 - ・ 感じていた疑問等を解消することができたため。
 - ・ 世代が大きく離れたシニアの方々と自分達の考えが一致する部分もあり、異なる部分もあり、そういった意見を交わし合うことで、自分の考えを更に深める助けとなったので。
 - ・ メディアが報道しない事実や問題点を知ることができた。
 - ・ 日本の今後の原子力を考えるにあたって、考えるべき点が見つかった。
 - ・ 第一線で活躍された方の、生の意見は非常にためになった。
 - ・ シニアの方々が各地で多くの取り組みを行う中での所感を、話として直接聞くことで、より肌身を感じることもできたため。
 - ・ 普段、関わることのない業界、年代の方と話ができて、知見が広がった。
 - ・ 私が気にしていたことを、ていねいに説明してもらった。
- ・ 時間が短かったと感じた。

(3) エネルギー事情、危機に対する認識に変化はありましたか？その理由は？

大いに变化した	0名 (0.0%)
多少变化した	7名 (50.0%)
あまり变化しなかった	7名 (50.0%)
まったく变化しなかった	0名 (0.0%)

出席者全員が「多少变化した」又は「あまり变化しなかった」と回答している。



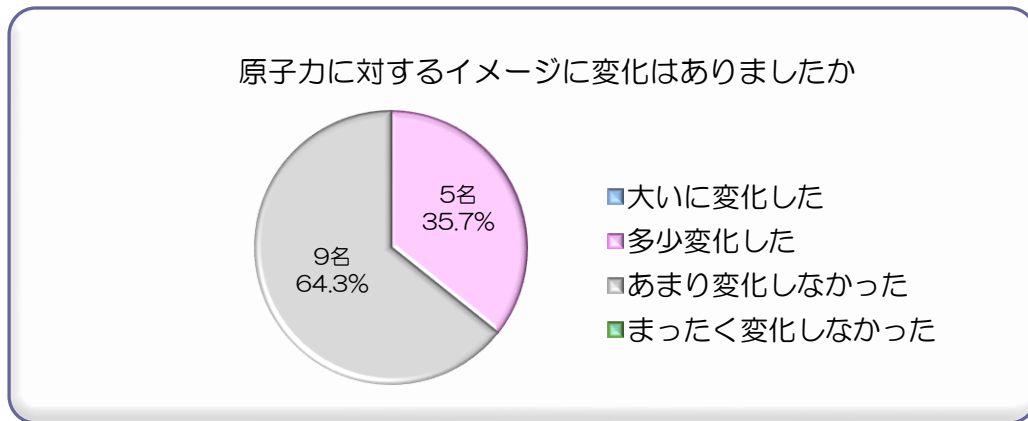
<理由>

- 自分がもともと考えていた内容が、更に深まっただけだったので。
- ・ 他国のエネルギー事情に詳しくなった。
- ・ 実際に日本と他国の違いや実情を知り、より危機に面していると分かった。
- ・ ある程度、自分の認識どおりで確認することができた。
- ・ もともと、後々大変になると思っていたので、再認識した。
- ・ 自分が考えていたことと共通したこともあった上で、新鮮な考え方も得られた。
- ・ データとして、日本のエネルギー事情は学んでおり、その重要性は理解していたが、自分だけでなく周りの人にも発信しなければならないことに気が付かされた。
- ・ ぼんやりと思っただけだったが、改めて言われると、エネルギー問題の重大さは深刻であり、危機意識が高まった。
- ・ 具体的な対策を知れた。
- ・ 以前から認識していたエネルギー危機が、さらに深刻なものだと認識した。

(4) 原子力に対するイメージに変化はありましたか？その理由は？

大いに变化した	0名 (0.0%)
多少变化した	5名 (35.7%)
あまり变化しなかった	9名 (64.3%)
まったく变化しなかった	0名 (0.0%)

「多少变化した」(“さらに原子力の必要性を感じた”等)が3割5分、「あまり变化しなかった」(“今後、日本に原子力が必要であるという点は変わらなかった”等)が6割超であった。



<理由>

- ・ さらに原子力の必要性を感じた。
 - ・ 反原発がまだ多いが、これからも必ず原子力が必要であるという話がよくあるから。
 - ・ 自分がもともと考えていた内容が、更に深まっただけだったので。
 - ・ 今後、日本に原子力が必要であるという点は変わらなかった。
 - ・ これからも原子力は必要であると考えており、それについての話が多かったから。
 - ・ 自分が考えていたことと共通したこともあった上で、新鮮な考え方も得られた。
 - ・ 自分の中での原子力のイメージはあっても、社会から見た原子力という観点は全く異なり、それが心に残った。
 - ・ 元から世間で言われているほど悪く思っていなかったため。
 - ・ 少し楽観的になった。
- ・ 厳しい状況であるというイメージに変化はなかった。
 - ・ 依然として厳しい状況が続くと感じた。

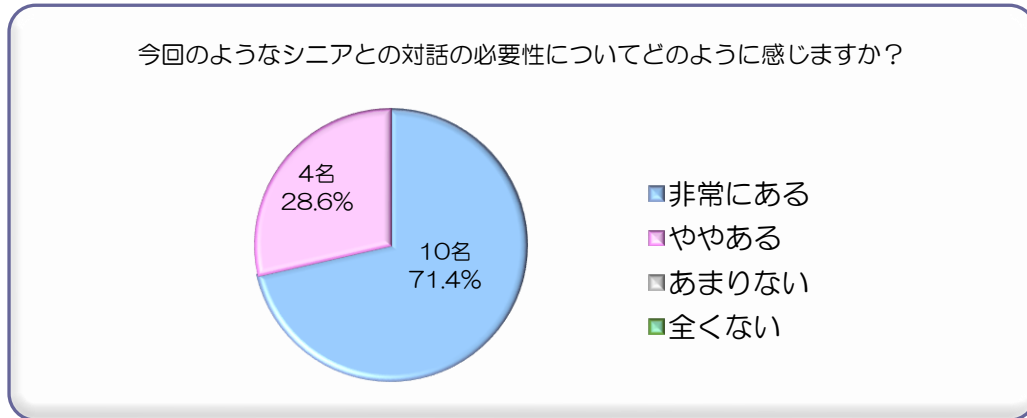
(5) 今回の対話会で得られたことは何ですか？

- ・ 思っていたよりも原子力業界の風通しの良さを感じた。
 - ・ 海外との協力（原子力協定、技術提携、機器単体等の輸出）、技術移転や国産化の経験。
 - ・ 原子力に携わってこられた方々が、肌で感じてこられたものを知れた。
 - ・ 立場が大きく違うシニアの方々と意見を交換する事で、自分の考えをもう一度見直し、考えを深める貴重な機会が得られた。
 - ・ 日本の実情や原子力の必要性。
 - ・ シニアの方々の考えや主張を聞き、吸収して考えること。
 - ・ 原子力に対する世界視点での切り口。
 - ・ より専門的な知識、自分にはなかったような考え方。
 - ・ 自分の価値観と異なる人々との対話の必要性。
 - ・ シニアの方々の目線で見えた原子力についての情報。
 - ・ 広い世代に原子力発電及びエネルギー情勢について知ってもらう必要があると感じた。
 - ・ 原子力の見通し。
 - ・ やはり日本に原発は必要であるということ。

(6) 今回のようなシニアとの対話の必要性についてどのように感じますか？その理由は？

非常にある	10名 (71.4%)
ややある	4名 (28.6%)
あまりない	0名 (0.0%)
全くない	0名 (0.0%)

「非常にある」が7割を超え、「あまりない」、「全くない」の回答はなかった。



<理由>

- 知識のみならず、経験が豊富な方々との対話は重要である。
 - ・ 疑問を持つことや聞きたいこと等を知識・経験の豊富なシニアに聞くことができるため。
 - ・ 原子力に携わってこられた方々が、肌で感じてこられたものを知れた。
 - ・ 時折、こうやって異なる意見を持つ人達と意見を交わし合うことは、自分達にとって良い経験になると思うので。
 - ・ 普段、大学にいるだけでは得られない知識が得られる。
 - ・ シニアの方々の話を聞き、将来を担う若い世代に良い点を引き継ぐことができるから。
 - ・ 自分にない知識を知れるから。
 - ・ 自分が持ち得ない考え方を得ることができる。
 - ・ 学ぶという立場である僕達が、発信する側になるという自覚を持てるため。
 - ・ シニアの方は若者のことを、若者はシニアの方のことを知れていない部分は多々あり、互いのためになると思った。
 - ・ 様々な意見を取り入れることは重要だと思う。
 - ・ 新しい知見。
 - ・ きちんと説得できる人材が多いから。

(7) 本企画を通して全体の感想・意見などがあれば自由に書いてください。

- ・ 本学で受講する講義とは異なる趣旨を通して、これからの自分を見直す機会になった。
 - ・ 来年度から電力会社で原子力発電に携わる仕事をするが、中立な立場から科学的に、原子力発電の有用性を理解してもらえるように、一層勉強する。
 - ・ 閉会の言葉がとても心に響いた。

- ・ 対話（グループワーク）の時間が短かった。